

定例研究会報告要旨

経営情報学分野 水澤長之

テーマ：市民農園の社会的役割に関する研究

年々増加する遊休農地対策として、さまざまな対策が講じられているが、さほどめばしい効果は上がっていない。そのなかで、市民農園は耕作したい市民が増加傾向にあり、農家の減少傾向であることから、有効な対策と思われる。

市民農園は、以前は、趣味的、レジャー農園としての利用であったが、近年は、福祉、環境保全、地域活性化、農地保全等さまざまな機能を発揮してきている。また、市民や地域のためだけでなく、農家経営さらに遊休農地対策と、農家にもかなりのメリットが期待される。特に、今年からは団塊の世代の帰農も期待されている。

ところが、いざ市民農園や農地を利用しようとする、要望に沿わなかったり、法律の縛りがあつたりと、多面的機能が障壁があつて発揮できない現実がある。

そこでその障壁を調べ、どのようなシステムであれば、利用したい市民や地域のための市民農園になるのかを検証したい。

今回の報告は、法律ごと、開設主体ごと、地域ごと等、さまざまなタイプがあるが、取りあえず先進事例から分類整理を行なった。

参考文献

利谷信義・和田照男編著「日本型クラインガルテン実現へのビジョン」

千葉県市民農園協会編著「市民農園のすすめ」

農水省 HP：市民農園を始めよう